

障がい児相談支援の基礎知識

～ 実践編 ～

2026. 3.5

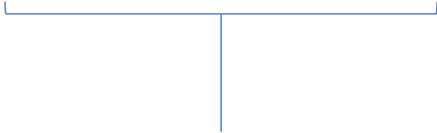
今日のおはなし

相談支援専門員として

- 価値・考え方
- 知識・技術
- プロセス
- ツール

相談支援体制として

- 地域での共通認識
- プロセスの管理
- 連携の土台づくり
- ツールとルールと

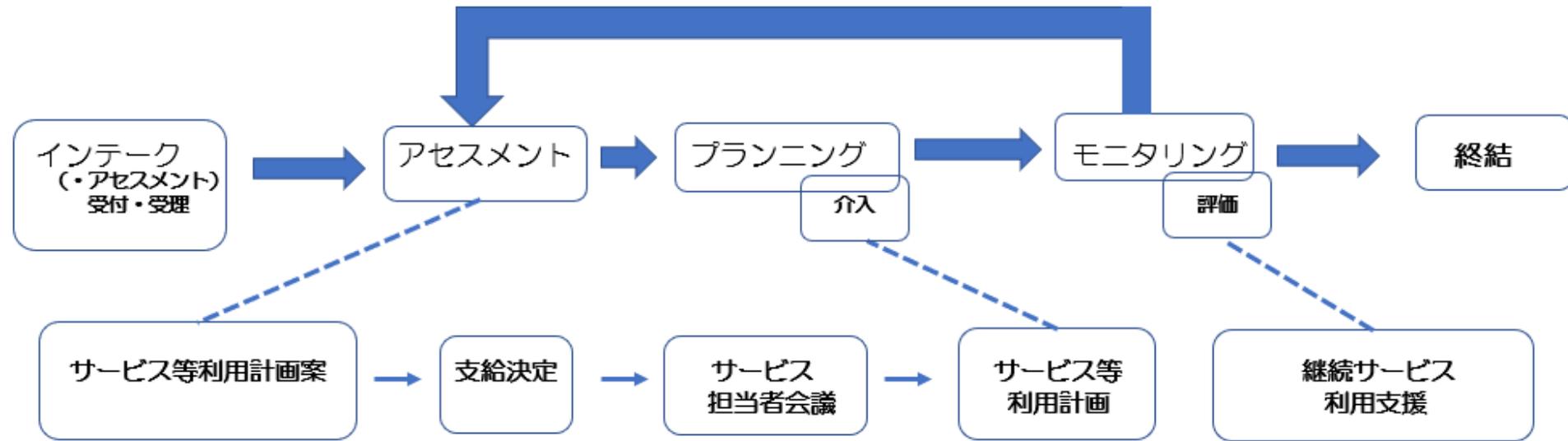


まとめ

相談支援の基本的視点

- 個別性の重視
- 生活者視点・QOLの重視
- 本人主体、本人中心
- 自己決定（意思決定）への支援
- エンパワメントの視点、ストレングスへの着目
- 権利擁護（アドボカシー）
- 地域の多様な資源へのアクセスと活用、資源開発
- チームアプローチ、多職種連携

ケアマネジメントのプロセス



インタビュー

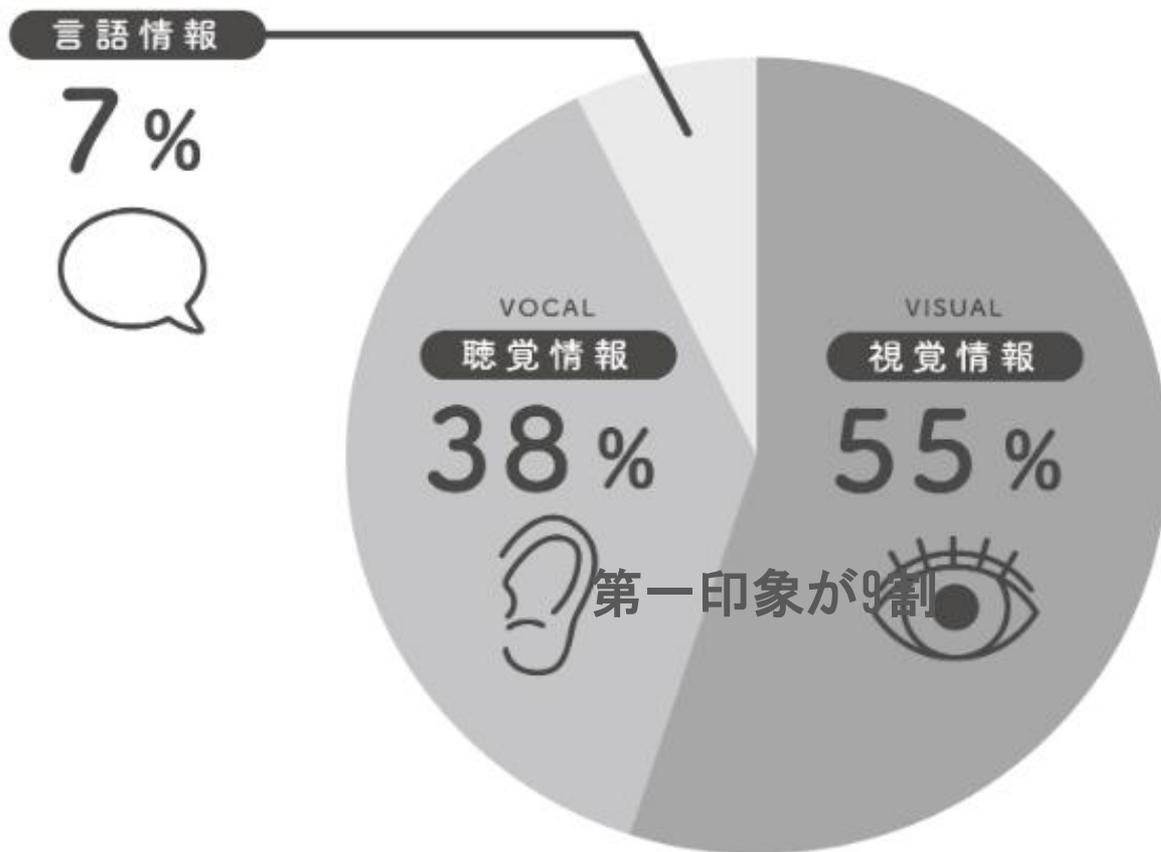


【keyword】

- 幼児期におけるインタビューは“障がい”よりも“発達”が土台に
- 学齢期におけるインタビューは自己認知と保護者との関係性に注意が必要
- 誰の？何が？問題で、解決しないといけないことはなに???
- 育ちを促すのか、スキルを教えるのか、環境を整えるのか・・・
- ライフステージごとの発達課題と環境とキーパーソンの変化への理解

- 言語情報
- 視覚情報
- 聴覚情報

メラビアンの法則





1. インテーク

- 関係づくり

- ・安全で安心な環境であること
- ・プライバシーへの配慮、椅子、机、温度、明るさ…
- ・受容、共感、非審判的態度、意図的な感情表出、個別化、自己決定…

- 情報収集

- ・こども、家族、所属、環境に関する情報
- ・思い、願い、困り、不安…
- ・思想、価値観、ナラティブ

- 情報提供

- ・面接の目的や見通し
- ・相談支援の役割や目的、手続き（守秘義務、契約なども）の流れなど
- ・福祉サービスもしくはそれ以外の相談先や優先度の高い対応など

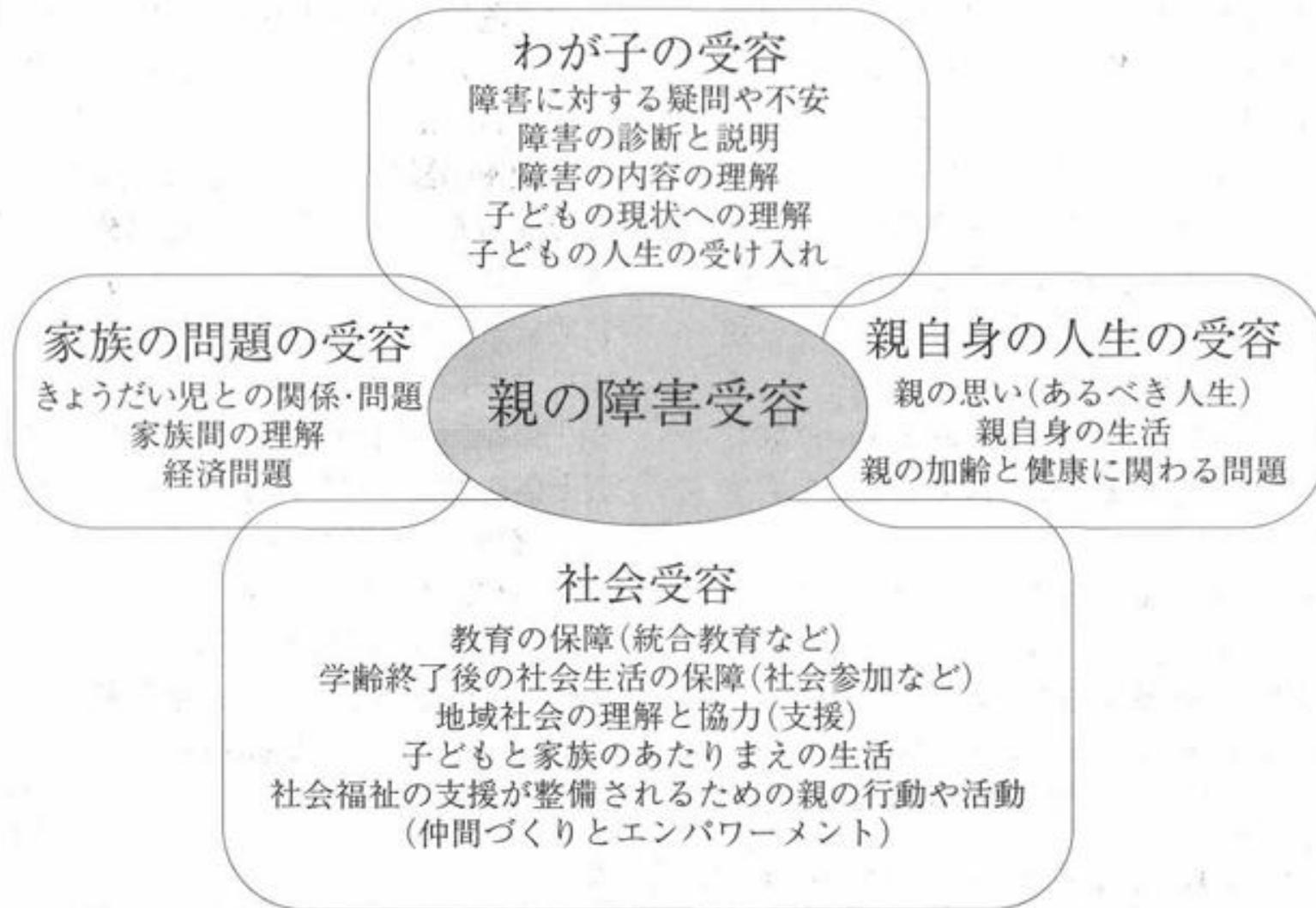


図1 親がわが子の障害を受容していく4つの要因³¹⁾



2. アセスメント

- 発達課題と障がい特性の理解

- ・ 最低限の知識と説明やコーディネートに必要な理解
- ・ 必要な情報を得るための選択肢の幅（こどもの行動観察、発達検査結果など）
- ・ 保護者の知識と理解と認識の確認

- 広さと深さと見通しと

- ・ 相談支援事業所として必要な広さと深さの範囲
- ・ 成長やライフステージごとに変わる状況とニーズの予後測
- ・ 解決すべき問題と達成すべき課題の整理

- ジェノグラムと3つの軸

- ・ ジェノグラムの活用はファシリテーションとしても有効
- ・ 地域での共通認識とこども、家族の範囲への配慮
- ・ 時間軸と空間軸と対人関係軸とで確認

冰山モデル

見える様子



環境

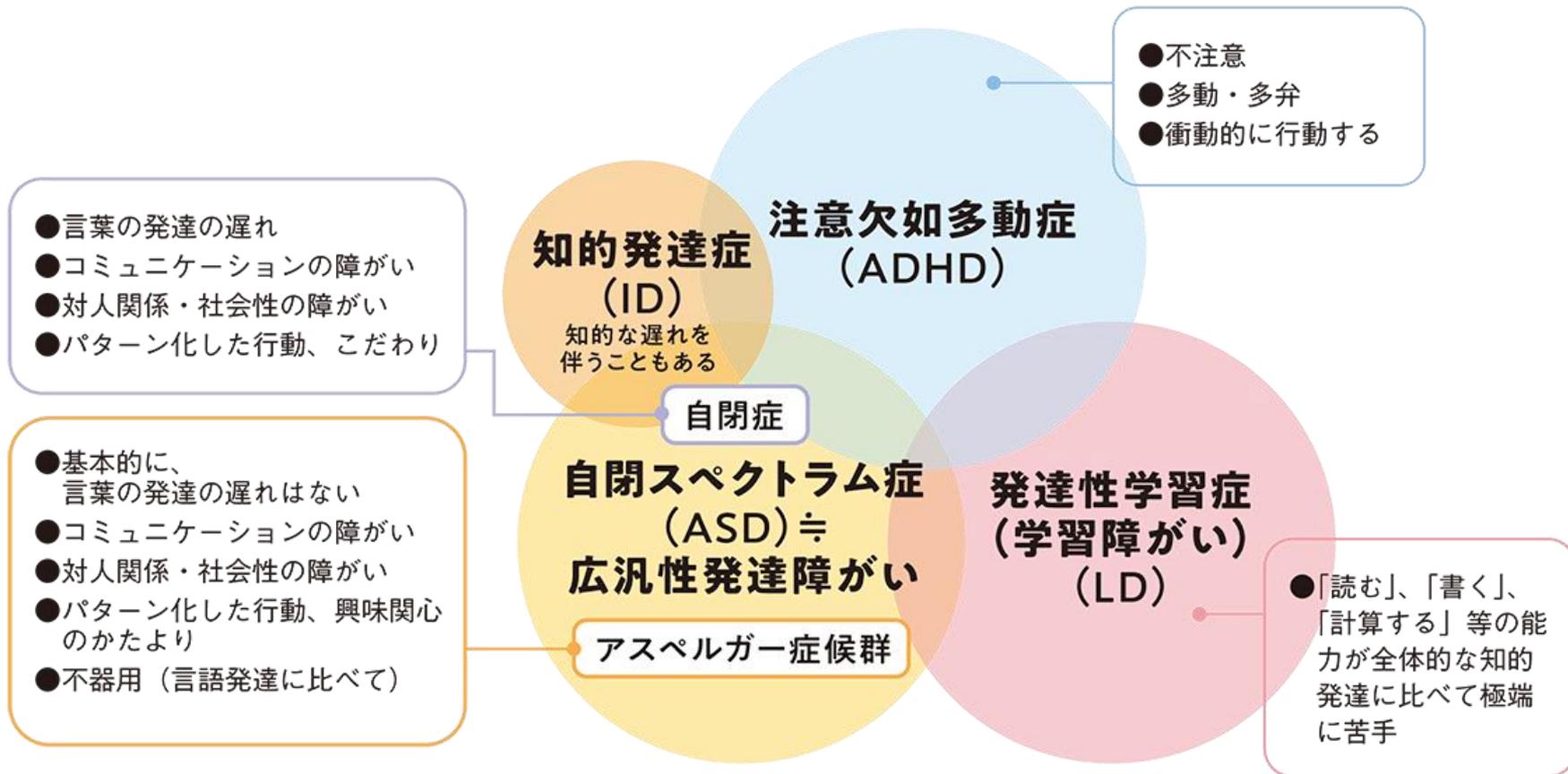
- 落ち着きがない
- 集団に参加できない
- 不登校
- 友達とトラブルが多い

- 暗黙的学習
- 注意の問題
- 実行機能の問題
- 聴覚情報処理の問題
- 社会的認知の問題

+ 感覚処理

要因となる特性

発達障がい（神経発達症）とは





“カンニング”って？

隣の子を見てはいけない！

- テスト → ×
- 休み時間 → ○
- 授業中 → △

良い⇔悪い

曖昧な・中間・適当・グレー
があることも“教える”

倉敷市共通アセスメントシート①

| | |
|-----------|--|
| 面談年月日 | 令和 年 月 日 時 分 ~ 時 分 |
| 聴取り相手（続柄） | 実施場所 <input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 自宅他（ ） |
| 記入者所属・氏名 | 自宅他でおこなった理由 |

1. 対象者

| | | | | |
|------------|--|------|------------------|------|
| フリガナ | | 生年月日 | 平成 ・ 令和 年 月 日 | 年齢 歳 |
| 氏 名 | | | | |
| 住 所 | | | | |
| 申請者（保護者）氏名 | | 生年月日 | 昭和 ・ 平成 年 月 日 | |

2. 手帳の所持

| | | | | |
|-------------------------------|---|--|---------------------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 手帳なし | <input type="checkbox"/> 医師意見書・診断書（令和 年 月 日添提出予定） | <input type="checkbox"/> 難病 | <input type="checkbox"/> 児相等 | <input type="checkbox"/> 自立支援医療 |
| <input type="checkbox"/> 手帳あり | <input type="checkbox"/> 療育手帳（A・B） | <input type="checkbox"/> 身体障がい者手帳（種 級） | <input type="checkbox"/> 精神保健福祉手帳（ 級） | |

3. 家族構成 ※続柄については、対象者（児童）を中心に記入。対象者は記入不要。

| 続柄 | 氏名 | 生年月日 | 職業 | 同居・別居 | 特記事項（心身の状態・就労状況等） |
|----|----|------|----|-------|-------------------|
| | | | | 同・別 | |

4. 緊急連絡先（ 自宅 自宅外）

| | | | | |
|----|----|-----|-----|-------------|
| 氏名 | 続柄 | 連絡先 | - - | （自宅・携帯・勤務先） |
|----|----|-----|-----|-------------|

5. 心身の状況・受診（リハビリ含む）の状況

| | | | | | |
|----------------------------------|--------------------------|--|------------------|---|--|
| 視力 | 右 | | 聴力 | 右 | |
| | 左 | | | 左 | |
| 麻痺・拘縮 | | | 既往症 （アレルギー含む） | | |
| 受診状況 （発達に関する受診やそれ以外の定期受診について） | 通院先・頻度・服薬やリハビリの有無・入院歴の有無 | | | | |

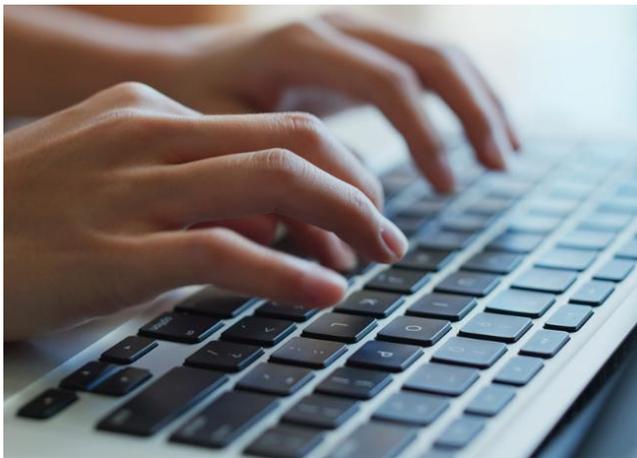
6. 就学・就労・社会参加の状況（行き先・頻度等）

| | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 所属 <input type="checkbox"/> あり（ ） 通常・支援（情緒・知的） | <input type="checkbox"/> 学童保育の利用 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし |
| <input type="checkbox"/> なし → 未定・就園（学） 予定 令和 年 月（ 就園（学）先を記入） | <input type="checkbox"/> 通級・幼児指導教室利用 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし |
| ○習い事 | |
| ○福祉サービス | |

- アセスメントにおいて相談支援専門員やケースによって聞き取りの差がないようにすること
- 児童に特化した内容が必要
- 保護者、事業所、相談員が共有できる
※何度も聞かれることへの抵抗感



倉敷市障がい児のサービス利用に関する様式



3. 計画作成

- 主体は子ども

- ・ 最低限の知識と説明やコーディネートに必要な理解
- ・ 必要な情報を得るための選択肢の幅（子どもの行動観察、発達検査結果など）
- ・ 保護者の知識と理解と認識の確認

- 本人支援・移行支援・家族支援・地域支援

- ・ 5領域「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」の視点とオーダーメイド
- ・ 時期、タイミング、見通し
- ・ 役割の違いと役割分担の具体化

- 幼児期や医ケア児においては抽象的な目標も

- ・ 体験やプロセス、その機会を提供すること自体が目標になることも
- ・ 長期目標と、そこに向けたステップ、ペースの共通認識
- ・ イメージするのは「作戦！」



チームとしての方針の羅針盤

- 発達や成長を促すのか
- 発揮できるための手立て、スキルを教えるのか
- 環境を整えるのか（合理的配慮も）
- こどもと家族それぞれのエンパワメントを

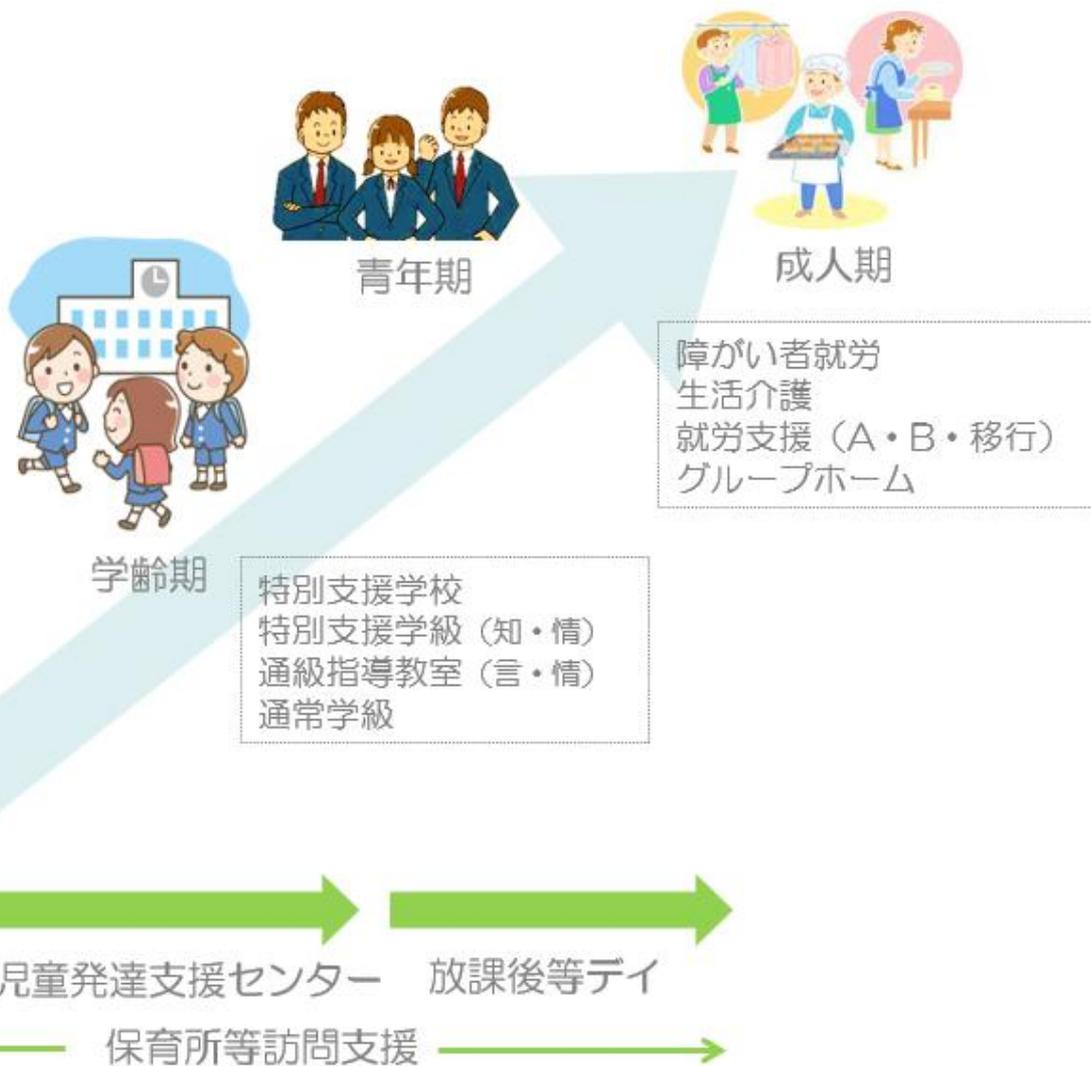
障害のある子の 支援計画作成事例集

発達を支える障害児支援利用計画と
個別支援計画

日本相談支援専門員協会 編集



中央法規



論点① インテークの前と後と

- 相談支援事業所に相談が入ってくるルートの確認、設定
- 保護者が相談支援事業所に連絡するタイミングの確認
- 一般相談と相談支援事業所における基本相談の目的、役割の整理
- 保護者が相談支援事業所を選択できるための手立て
- 相談支援事業所として受ける対象の具体化と地域での整理
- 保健、保育、教育とのプロセスや各機関の役割の共通認識
- 医療と医師の役割の明確化とプロセスの周知
- 共通認識を図るためのリーフレットの作成 など

論点②③ アセスメント → 計画作成

- アセスメントの価値、目的、視点の共有
- アセスメントのハードルを下げるための手立て（研修、様式、マニュアル等）
- アセスメントの量と質を担保するための手立て
- 医療、保健、保育、教育 連携のための土台づくり
- 相談支援→療育事業所の共通認識とルールの設定
- 地域での事例検討やGSVでの支援者支援と継続的な人材育成
- 計画相談かセルフプランか、基準と判断のタイミングの設定

【聴き取りマニュアル】倉敷市共通アセスメントシート①

| | |
|-----------|---|
| 面談年月日 | 令和 年 月 日 時 分 ~ 時 分 |
| 聴取り相手(続柄) | 実居場所 <input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 自宅他 () |
| 記入者所属・氏名 | 自宅外でおこなった理由 |

1. 対象者

フリガナ 実居場所について、原則自宅でおこなう方が好ましい。自宅以外でおこなった場合には、その理由を記入してください。

氏名 のぞとらかに記述。 年 月 日

住所 自立支援医療(精神通院)・小児慢性特定疾患受給者証は、コピーの提出が必要。児童相談所での判定結果を提出する場合、同意書(様式有)が必要。 年 月 日

申請者(保護者)氏名

2. 手帳の所持

手帳なし 医師意見書・診断書(令和 年 月 日 通院日付) 難病 児相等 自立支援医療

手帳あり 療育手帳(A・B) 身体障がい者手帳(続) 精神保健福祉手帳(続)

3. 家族構成 ※続柄については、対象者(児童)を中心に記入。対象者は記入不要。

| 続柄 | 氏名 | 生年月日 | 職業 | 婚姻・別居 | 特記事項(心身の状態・就労状況等) |
|----|----|------|----|-------|-------------------|
| | | | | 同・別 | |

☆別居でも対象児の支援に関わっている親族がいれば記入する事。(通迎を協力してくれる別居の祖父母等) ☆特記事項には、勤務状況や心身の状況を記入。(父母にも支援が必要な場合やきょうだいで福祉サービスを利用している場合などはその旨を記入)

| | | | | | |
|--|--|--|--|-----|--|
| | | | | 同・別 | |
| | | | | 同 | |
| | | | | 同 | |

4. 緊急連絡先(□自宅OK □下記連絡先へ)

氏名 記入漏れがちな... (自宅・携帯・勤務先)

5. 心身の状況・受診(リハビリ含む)の状況

| | | | | | |
|-------|--|---|-----|--|---|
| 視力 | 右 日常生活に支障があるかどうかを記入。眼鏡使用の有無・裸視や近視の有無など | 左 | 聴力 | 右 日常生活に支障があるかどうかを記入。 | 左 |
| 麻痺・拘縮 | 麻痺の麻痺・拘縮について記入。 | | 既往症 | 麻痺に由来しない別項で記載している疾病について記入。アレルギー関係も記入。 | |
| 受診状況 | 通院先・頻度・受診やリハビリの有無・入院歴の有無 点に特に関する医療機関受診について記入。(かたづけ医がなければその医療機関も記入) ・療育機関・主治医・通院頻度は必ず記入 ・服薬やリハビリを受けている場合は、その内容を記入 ・入院歴が既往症の場合はこれまでに受診、受診の場合は直近1年間での受診を記入。 | | | | |

6. 就学・就労・社会参加の状況(行き先・頻度等)

○所属 あり () 通学・支援(通学・就労) 学習机の利用 あり なし

なし → 未定・就園(学)予定 年 月 () 通院・施設等利用 あり なし

○習い事 ☆児童保育・通園等の利用の有無について、サービス利用や支給量上限に関わって(るので)必ず記述してください。
☆就園(学)予定を把握している場合は時期と就園(学)先を記入してください。
☆現在の福祉サービス利用状況(頻度)や福祉サービス以外の習い事についても記入してください。

○福祉サービス

【聴き取りマニュアル】倉敷市共通アセスメントシート②

I. おじさまの様子①

児童氏名

| 項目 | 当てはまる内容に□及び、具体的な状況や頻度等を文章で記述 | ※あてはまる項目に□ |
|-----|---|--|
| ①食事 | <input type="checkbox"/> 全て食べさせている <input type="checkbox"/> 食べ方・食事の形態を工夫している <input type="checkbox"/> 手で食べる <input type="checkbox"/> スプーン・フォークを利用。補助器を利用 <input type="checkbox"/> 声かけ・見守り <input type="checkbox"/> 食に関するこだわり <input type="checkbox"/> 食感に過敏さがある 食事全般に関して、支援が必要かどうかに着目して記入してください。 上記チェック項目を活用しながら聞き取り、その内容の補強を記載してください。 特定の食品にアレルギーがあれば、記録不要とする | <input type="checkbox"/> 食卓以外の方法、一部の人のみ <input type="checkbox"/> 食卓なし |
| ②排泄 | <input type="checkbox"/> 場所によって介助要 <input type="checkbox"/> オムツ使用(状況により) <input type="checkbox"/> トイレまでの誘導 <input type="checkbox"/> 拭き取り介助要 <input type="checkbox"/> 便器の様式によって介助要 <input type="checkbox"/> 予告なし <input type="checkbox"/> 後食なし 排便の一端の行動(トイレ行く→便器の前に入つに居る)→用を足す→拭き取る→水を流す)を行なえるかどうかに着目して(下さい。 排便の一端の行動(トイレ行く→便器の前に入つに居る)→用を足す→後座席をおこなえるかどうかに着目して(下さい。 ※女性の場合、月経時の処理については「排便」の項目で聞き取り | <input type="checkbox"/> 拭き取り介助要 <input type="checkbox"/> 後食なし 排便についても聞き取りしてください |
| ③入浴 | <input type="checkbox"/> 浴槽の出入・洗身等全て介助 <input type="checkbox"/> 保護者等と一緒に入浴 <input type="checkbox"/> 洗面・洗身に介助・仕上げ・声かけ要 入浴に関する行為に支援が必要かどうかに着目して記入してください。 身体・髪を洗う 浴槽の出入り 身体・髪をふく等 | |
| ④移動 | <input type="checkbox"/> 車への移乗に介助要 <input type="checkbox"/> シートベルトの着脱に介助要 <input type="checkbox"/> 運転中にじっと座っていることができない <input type="checkbox"/> 声かけが必要 <input type="checkbox"/> ドアの開閉 車に乗って外出するときに支援が必要かどうかに着目して記入してください。 <input type="checkbox"/> 車イス等使用(自操不可) <input type="checkbox"/> 車イス等使用(周囲の状況により) <input type="checkbox"/> 手つなぎ必要 <input type="checkbox"/> 声かけ・見守りが必要 徒歩で外出する時に支援が必要かどうかに着目して記入してください。歩けるかどうかではなく、一人で外出できるかどうかです。 | |

II. おじさまの様子②-1

| 項目 | 具体的な状況、頻度等(文章で記述) | ※あてはまる項目に□ |
|----------------------|---|--|
| ① 本人からの発信・表現方法 | 家族や友達、先生等へ言葉で意思伝達ができるかどうかに着目 「会話が、一部の個人特定の個人や場面、状況で伝達できることがある。手紙、郵便、メール、絵カード等で伝える場合、本人独自の表現方法、記法(文字等のコミュニケーション)、絵や字、指差し等を含む。 「できない」意思伝達が見えれば記述でき、できないかどうか判断できない場合 | <input type="checkbox"/> できない <input type="checkbox"/> 会話以外の方法、一部の人のみ <input type="checkbox"/> 食卓なし |
| ② 説明の理解度 | 家族や友達、先生等からの言葉での説明を理解しているかどうかに着目 「できる」言葉での説明に対して全て理解し、それに反応(返事・うなづき・無反応等)する 「配慮が必要」言葉での説明では十分理解できないため、何らかの配慮をおこなえば理解し反応する 「できない」説明を理解できていないかどうか判断できない | <input type="checkbox"/> できない <input type="checkbox"/> 理解してもらったための配慮が必要 <input type="checkbox"/> できる |
| ③ 対人関係 | 友達や先生等との関わり方、言葉(声)以外の様子について支援が必要かを記入。 例)特定の友達との遊ぶ・関わり方が一方・他者への関係の有無 等 | <input type="checkbox"/> 全面的な支援 <input type="checkbox"/> 部分的な支援 <input type="checkbox"/> 支援不要 |
| ④ 特定の考え、物、人に対する強いつらさ | 特定の考え、物、人、物に強い執着やこだわりがあり、それによって日常生活に支障がある場合 (特定の人のへの暴力も含む。唯一のもの暴力を振るうなど) | <input type="checkbox"/> 執着について、調査日前1か月間の状況で判断する。 |
| ⑤ 多動、行動の停止 | 特定の物や人に対する興味関心が強く多動となり、その対象にこだわって動かなくなる場合 生活場の中や場外等において、周囲が異常な状況でも動きを止めていない場合 眠っている場合はその旨を記入し、眠っていない場合は空室して記入 | 「ほぼ毎日」 ・…週5日以上 の週2週間以上あった場合。 |
| ⑥ パニック、不安定な行動 | 予定や慣れた支援者等、状況が変わる事が受け入れられず、大声や興奮してパニック状態になる等行動が不安定になる場合 自身の意に反しないことがあると脅威をおこなう場合 眠っている場合はその旨を記入し、眠っていない場合は空室して記入 | 「週1回以上」 ・…週1回以上 又は、調査日前1か月間に2回以上あった場合。 |
| ⑦ 危険の認識 | 生活場面において、自ら危険な事や危険な安全な行動を取ることができかどうかに着目 また、親等の言葉に応じて安全な行動が取れるかどうかに着目 例)火の始末や管理・刃物の使用・交通ルールの認識・危険行為の認識 等 | <input type="checkbox"/> なし |
| ⑧ 夜間不眠や昼夜逆転 | 夜に眠れず1日中起きていたり、夜にならざる寝るとなると夜より起きているなど昼夜逆転生活となって日常生活に支障がある場合 眠っている場合はその旨を記入し、眠らない場合は空室して記入 | <input type="checkbox"/> なし |

受給者証の申請手続きについて

障がい福祉サービス(介護給付費、障がい児通所給付費など)受給者証の申請手続きには、ケアプラン※1が必要な場合があります。相談支援事業所※2で、ケアプランの作成と障がい福祉サービス受給者証申請のお手伝いをおこなっていますので、「手続きの流れ」に沿って、**事前にご予約の上、保護者とお子さん一緒に障がい福祉サービス受給者証の申請手続きをおこなってください。**

※1ケアプランとは?



「障がい児支援利用計画(サービス等利用計画)」と「週間利用計画」のことです。ケアプランには、ご本人や保護者が希望するお子さんの生活や相談支援専門員が考える総合的な支援方針などが記載されます。このケアプランを基に、障がい福祉課及び各支所福祉課がサービスの支給決定をおこないます。ケアプランの作成にあたっては、利用者の費用負担はありません。

※2相談支援事業所とは?

お子さんの総合的な支援を考えてケアプラン作成を行ったり、ご家族の相談窓口となる事業所です。(療育事業所とは異なります。)また、関係機関と連携しながら、安心して生活できる地域での支援体制を考えます。必要に応じて利用する事業所選びからお手伝いもおこなってくれます。定期的に状況を伺い(モニタリング)、ケアプランの見直しをおこないます。

●ケアプランが必要な方

次のサービスをひとつでも利用を希望する方が「ケアプラン」作成が必要になります。

- ・児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援、居宅訪問型児童発達支援
- ・身体介護、通院介助、行動援護、短期入所

※地域生活支援事業(移動支援、日中一時支援、訪問入浴)のみを利用の方は、ケアプランは不要です。



●手続きの流れ(例:児童発達支援を利用する場合)



*障がい者手帳等所持されている場合、診断書(意見書)は不要です。

通所利用計画書 兼 サービス等利用計画作成依頼書

【サービス等利用計画作成依頼】

相談支援事業所 あり

下記児童について、次の通所利用計画のとおり障がい福祉サービスを利用予定です。については、サービス等利用計画の作成を依頼します。

| | | | | |
|-----|-----|------|-------|-------|
| 対象者 | 保護者 | フリガナ | 生年月日 | 昭和 平成 |
| | | 氏名 | 年 月 日 | |
| 児童 | 児童 | フリガナ | 生年月日 | 平成 令和 |
| | | 氏名 | 年 月 日 | |

【通所利用計画】

上記児童について、次の利用計画のとおり受け入れます。

◎サービス種別

- 児童発達支援センター
 児童発達支援事業
 保育所等訪問支援事業
 医療型児童発達支援センター
 放課後等デイサービス事業
 居宅訪問型児童発達支援

◎利用計画

週単位の利用

| 時間 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|-----|--|---|---|---|---|---|---|
| | ¥ | ¥ | ¥ | ¥ | ¥ | ¥ | ¥ |
| その他 | ※利用予定の曜日欄に受け入れ時間帯を記入 <input type="checkbox"/> 週単位以外の利用(具体的に) サービス提供開始予定日 <input type="checkbox"/> 年 月 日 ごろより受け入れ可。 <input type="checkbox"/> 障がい福祉サービス受給者証が発行され次第受け入れ可。 | | | | | | |

*キャンセル対応のみの利用計画では、支給申請はできません。必ず固定の利用日を設定してください。

令和 年 月 日

事業所名

児童発達支援事業所

ページ番号1004517 更新日 2025年0月26日

印刷 

大きな文字で印刷 

事業所(50音順(英→仮名→漢字))

事業所名をクリックすると、詳細な情報がわかります。

(別ウィンドでPDFファイルが開きます。)

HAPPY SMILE

- [HAPPY SMILE \(PDF 98.9KB\)](#) 
- [自己評価表\(HAPPY SMILE\) \(PDF 588.7KB\)](#) 
- [プログラム\(HAPPY SMILE\) \(PDF 928.2KB\)](#) 

P.P.P.ヒマワリ！玉島

- [P.P.P.ヒマワリ！玉島 \(PDF 114.0KB\)](#) 
- [自己評価\(P.P.P.ヒマワリ！玉島\) \(PDF 546.5KB\)](#) 
- [プログラム\(P.P.P.ヒマワリ！玉島\) \(PDF 374.4KB\)](#) 

P.P.P.プラットフォーム！玉島

- [P.P.P.プラットフォーム！玉島 \(PDF 105.4KB\)](#) 
- [自己評価\(P.P.P.プラットフォーム！玉島\) \(PDF 629.6KB\)](#) 
- [プログラム\(P.P.P.プラットフォーム！玉島\) \(PDF 378.8KB\)](#) 

P.P.P.プラットフォーム！児島

- [P.P.P.プラットフォーム！児島 \(PDF 94.9KB\)](#) 
- [自己評価\(P.P.P.プラットフォーム！児島\) \(PDF 731.0KB\)](#) 
- [プログラム\(P.P.P.プラットフォーム！児島\) \(PDF 379.4KB\)](#) 

Smile Kid's かたしま

- [Smile Kid's かたしま \(PDF 92.5KB\)](#) 

児童発達支援事業

社会福祉法人 クムレ

きらり倉敷

住所

710-0836

沖193



電話番号 435-9820

FAX番号 435-9822

メールアドレス

kirari@cumre.or.jp

ホームページ

https://cumre.or.jp/

Information

利用定員

1日10名

開所日

月～金※日祝休み、お盆や年末年始等休み有り

開所時間

9:00～16:00

スタッフ

管理者、児童発達支援管理責任者、保育士、児童指導員、作業療法士

療育内容

発達に何らかのつまずきや遅れのあるお子さんを対象に、一人ひとりがその子らしい生活を確立できる力を育てることを目指します。個別活動、小集団活動、余暇支援等を通して、地域で生きる力をつけられるように課題を設定しています。

利用児の主な疾病・障がい

自閉スペクトラム症・注意欠如多動性障害

送迎 なし(要相談)

その他のサービス

事業所に質問してみました。

療育を行う上で大切にしている事は何ですか？

“できた！”という達成感や、自己肯定感を子ども自身が味わえるような課題設定

保護者支援という視点で取り組んでいる事はありますか？

ペアレント・トレーニング、サポートブック作成会、かがやき手帳を書く会等、勉強会の開催
日々の申し送りや相談にて保護者のお話を伺う

療育って何ですか？どういう事ですか？

・支援者が子どもたちの得意なこと、苦手なことを評価し課題を設定し、子どもたちが課題に取り組む中で出来ることをスモールステップで身につけていく場所
・保護者(保護者)が元気に子育てができるようにサポートする場所
・支援者、保護者、所属機関(園、学校)と連携し、地域で生きる力を一緒に考えて行く場所

皆さんの事業所の「強み」は何でしょうか？

子どもたち一人ひとりの持っている力を信じ、日々の頑張りをたくさん褒めます。

事業所を探されている保護者に一言！

子どもたちの成長と共に喜んだり、時に一緒に悩んだり。そんな場所の一つになれると嬉しいです。

まとめ



相談支援専門員として

- 対象と範囲の具体化
- 療育事業所を知る、見る
- 関係機関を知る、見る
- 相談できる先をつくる
- ツールの活用

相談支援体制として

- 地域での共通認識
- プロセスとルールの設定
- 連携の枠組みづくり
- 支援者支援（OJT、GSV）
- ツールの作成と活用